

コンクリート解体ピークを目前に 静音工事の需要が増加

(株)ダイヤモンドプロジェクト

(株)ダイヤモンドプロジェクト(ダイプロ、神奈川県横浜市鶴見区梶山1-7-2、村上新社長、☎045-633-4310)は、ダイヤモンドカッターを用いたコンクリート切断工事を中心に、静音解体の施工で業績を伸ばしている。コア抜き、ウォールソー、ワイヤーソー、バースターなどの各種工法を顧客に提案し、あらゆるコンクリート解体工事で顧客に機動力の高い工事を提供する。

こうした静音解体は通常の重機解体に比べてコストがかかるため、隣の物件に近接している壁だけをカッター工法で壊すなど予算に応じた提案が可能だ。最近の傾向としては立体駐車場の工事が増加傾向にあるという。バブル期に狭い土地の有効利用策として普及したが、老朽化が始まり、車種も当時主流だったセダンタイプからファミリーカー隆盛の時代へと替わっている。運用が難しくなり、解体を行う際も立地条件から重機による工事が難しく、同社の技術が活用されているという。

同社が進めているのが、バースターによ

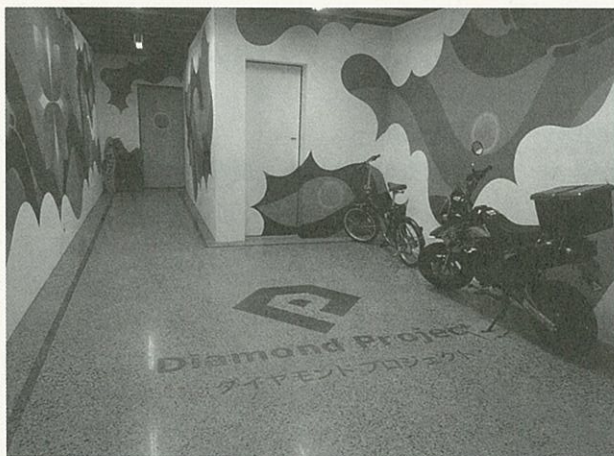
るコンクリート解体工事の提案だ。基礎解体・土間解体などで需要が高い。コア抜き後に専用装置で内部から押し出す力でコンクリートを破砕する工法で、バースターユニットは関連会社の(株)元機(神奈川県横浜市)が開発した「POWER RAM」を活用。リモコン操作でワンマン作業を可能にし、コンパクトな形状でひとりで車に積み込める。

バースター工事ではコンクリートの強度によってピッチを微調整するが、これまで経験によって行ってきたこの作業の裏づけを作るための資料の作成を始めた。今後、老朽化したコンクリート構造物の解体はますます需要が高まる。公共工事に活用する際の根拠としてデータを蓄積していく。

バースターは重機での破砕が難しい天然石の破砕が必要な災害復旧工事などでも活用されている。

解体から「製造」への転換も視野

また、解体工事から「建築業」への一歩も踏み出している。コンクリートや石材の床面を研削・研磨して平らに補修する「デザインフロア」の工事を始めた。磨き上げて鏡面仕上げが可能で、特殊な塗料を使うことでコンクリートに色を入れることもできる。ロビーやエントランスに会社のロゴやアートを描いたり、蓄光素材を埋め込むなど自由度が高く意匠性の高いデザインフロアを実現できるのが特徴だ。コンクリートの打ち替え工事からの一括施工を提案していく。



デザインフロア